ECCP（論理的思考）II

科目ナンバリング　SEM-204
選択　　2単位

1. 授業の概要（ねらい）

ECCP　有資格者を対象に2年生クラスとして開講します。前期の継続です。文系の論理的思考とは必ずしも数学的論理ではなく、自分の考え方に筋がとおっていること、それをできるだけ正確に表現できること、を基本とするものです。人は「数字」か「ことば」でモノを考える。2年時クラスでは、さまざまな現代事象とテーマを手掛かりに、ふだんのクラスでは触れることが少ない論題をとりあげ、興味と視野を広げ、自分なりの考え方をまとめる訓練をしていきます。講義最後の10分を、その都度のテーマについて自分の考えを記述コメントする時間にあて、提出してもらいます。引き続き、2年生には主に映像資料を通じて考えてもらいます。

2. 授業の到達目標

前期と同じ目標です。とくに少しずつ書いていくことに力点をおいていきます。

3. 成績評価の方法および基準

前期を踏襲します。講義ごとに求める記述コメント（40%）、最終小論（60%）の配分で最終評価を決めます。

4. 教科書・参考文献

5. 準備学修の内容

これも前期と同じく、国内国際テーマに広く関心をもっておくこと。そのためにも日頃のニュースと、その背景に関心を寄せておくこと。

6. その他履修上の注意事項

ECCP全体に通じることですが、欠席は大きな損失になる。従来、ほとんどのECCP履修生が高い出席率を記録しています。しかしながら、出席率が高いだけで良い成績を得られるとは思わないこと。

7. 授業内容

【第1回】　後記ガイダンスを兼ねて、前期の最終小論を評価し、検証する。履修生に何がまだ足りないか、指摘してこれからの勉学に生かしてもらう。

【第2回】　前期の講義進行状況を見たうえで、具体的なテーマ設定を行う予定。とりあえず、仮のテーマ設定を明記しておくので参考にしてください。実際の講義では変更がありえます。
映像資料映画「夜と霧」を通じ、20世紀最大の虐殺事件ホロコーストを考える。(国際政治テーマ)

【第3回】　同テーマで議論継続。

【第4回】　映像資料「広島　作業呉服店の日常」から働く人々が買う作業着を通じ、働くとはどういうことか考える。（国内労働問題テーマ）

【第5回】　同テーマで議論継続。

【第6回】　映像資料「ラトビア　歌と踊りの100年」。北欧東欧のバルト三国の一つラトビアを通じ、20世紀末、世界を揺るがせた社会主諸国の体制崩壊の裏側を知る。(国際問題テーマ)

【第7回】　同テーマで議論継続

【第8回】　映像資料「カンボジア　ある文民日本人警官の死」を通じ、日本の国際貢献とは何か考える。（国際国内関連テーマ）

【第9回】　同テーマで議論継続

【第10回】　映像資料「東京渋谷のモスク」を通じ、現代日本のイスラム教徒たちの現実を知る。海外からの移住者が増えるに伴い、イスラム教徒数が増大し、文化共存を議論する時代になっている現実。（国内国際社会問題テーマ）

【第11回】　同テーマで議論継続

【第12回】　映像資料「原発事故　廃炉への道　巨額の経費をだれが負担するのか」。2011年の福島原発事故処理は最終解決の道へ40年の年月と予算が必要。わすれがちなその後を知る。

【第13回】　同テーマで議論継続

【第14回】　それまでの後期履修学生の記述コメントをもとに議論を拡大する。

【第15回】　まとめと最終小論作成テスト。